

志摩市公共施設等総合管理計画の概要

公共施設を賢く長く使っていくために

1. 計画の背景

本編 p.1

志摩市における公共施設の状況

志摩市は合併後、市の発展のため、市民の皆さまの身近にある学校を始めとした公共施設について、**新しい市の形に適した機能および規模**へ見直しを図ってきました。

国の動き

国は、公共施設等の老朽化問題に「インフラの老朽化が急速に進展する中、『**新しく造ること**』から『**賢く使うこと**』への重点化が課題である。」と挙げています。

志摩市公共施設等総合管理計画

志摩市では、これらの経緯を踏まえ、より効率・効果的な維持管理、更新を実施するために、公共施設の現状と課題を調査・分析し、公共施設等の総合的な管理の基本方針として「志摩市公共施設等総合管理計画」を定めることにしました。

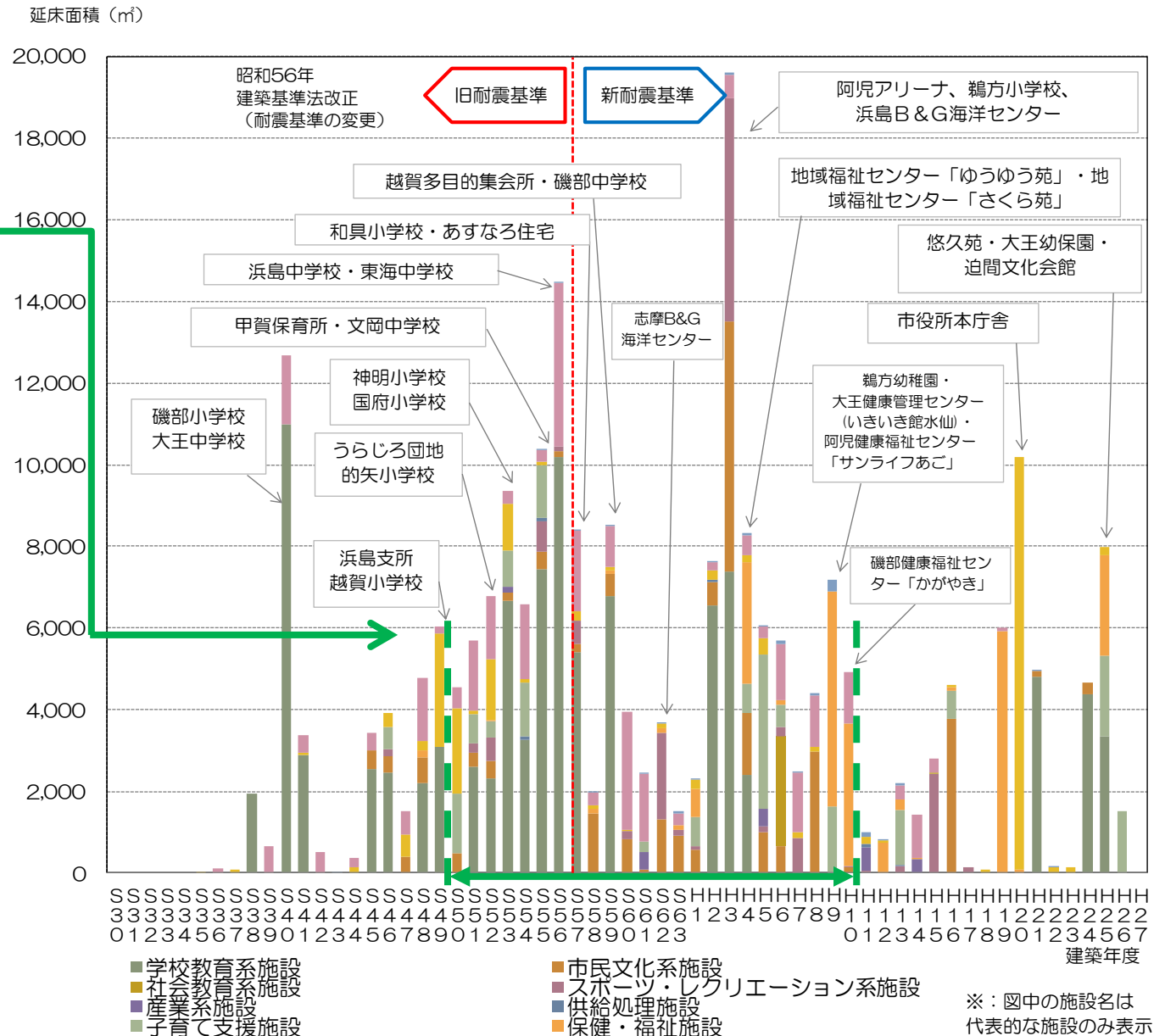
2. 公共施設等の現況

整備状況

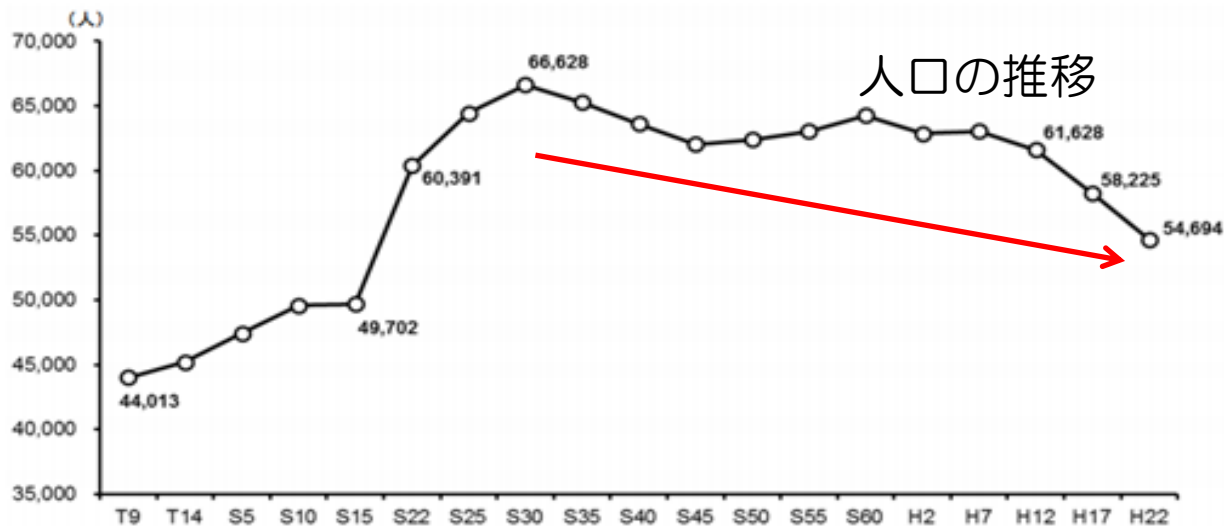
昭和50年ごろから平成10年までの期間で集中的に整備されており、この期間で全体の6割を占めています。

更新の集中

今後、集中的に整備した公共施設が老朽化し、建替えなどの更新が集中することが予測されます。



3. 人口



人口の推移

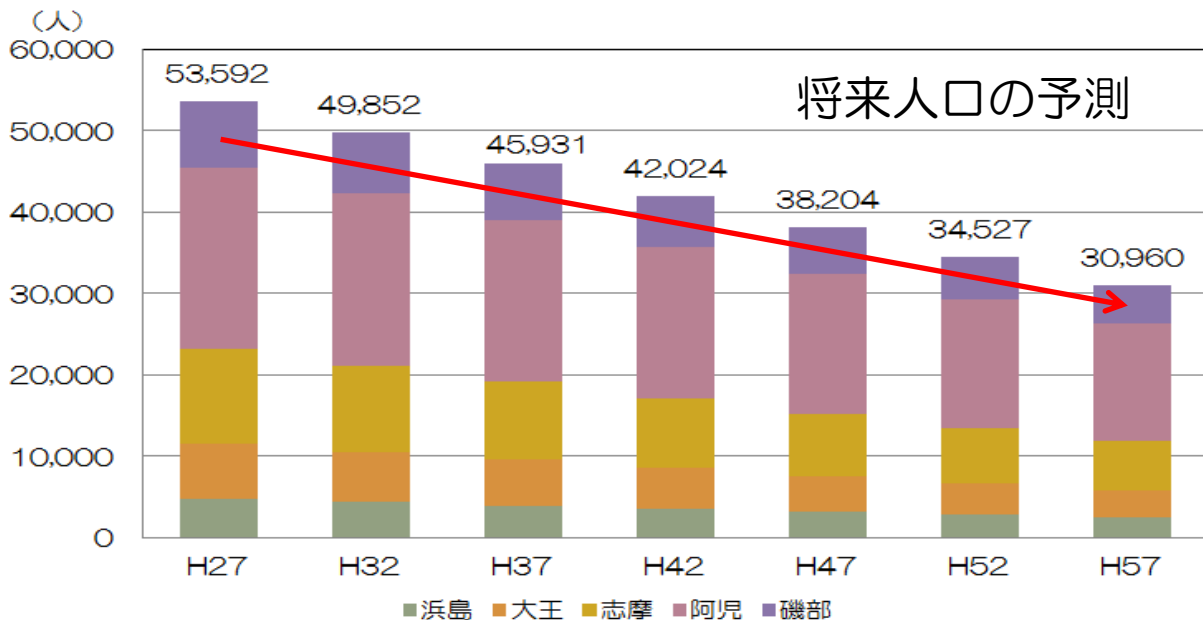
合併以後、**53,592人**
(H27.4時点)まで減少しました。

将来人口の予測

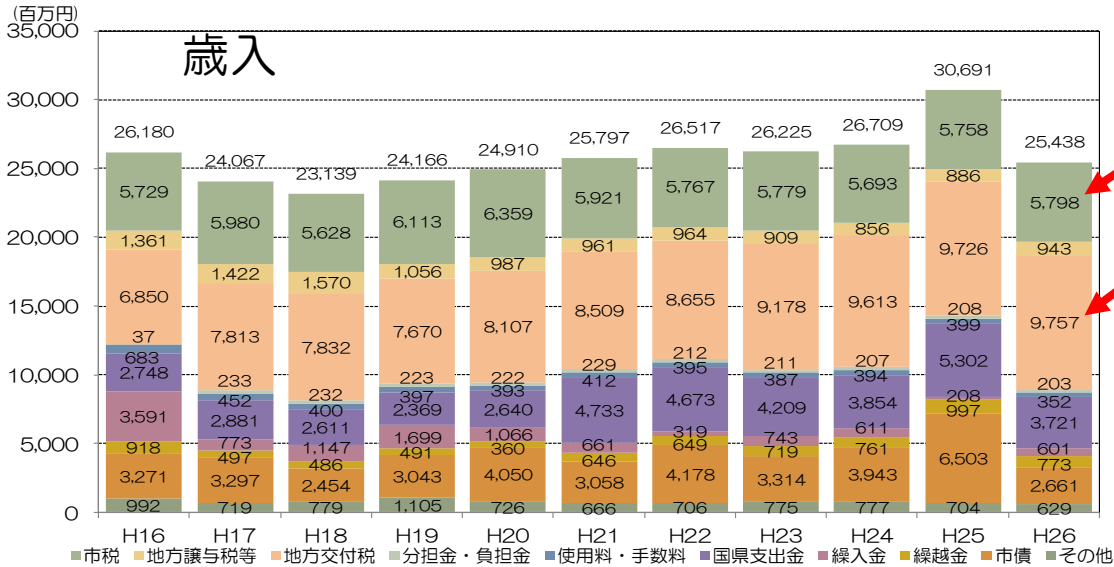
平成57年度には**3万960人**まで減少する予測となっています。

人口構成予測

平成57年度には、**全人口の半数**が**65歳以上**、3人に1人は**75歳以上**となる予測となっています。



4. 財政

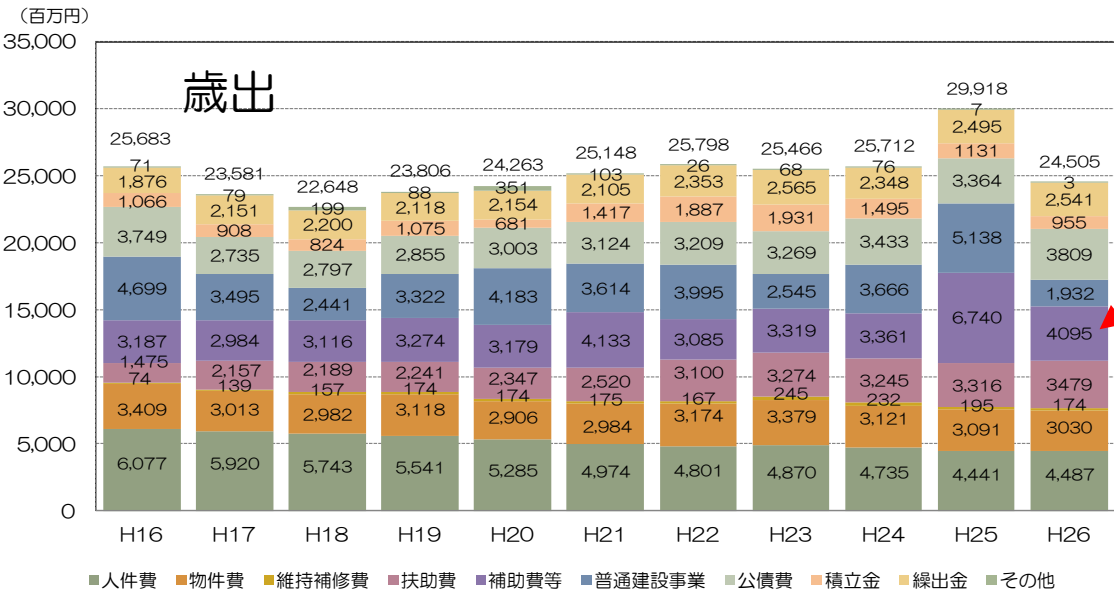


歳入

自主財源である市税は減少傾向にあり、依存財源は、増加傾向です。

歳入の見通し

今後、市税などの税収は、生産年齢人口の減少に伴い、**更に減少していく見込みです。**



歳出

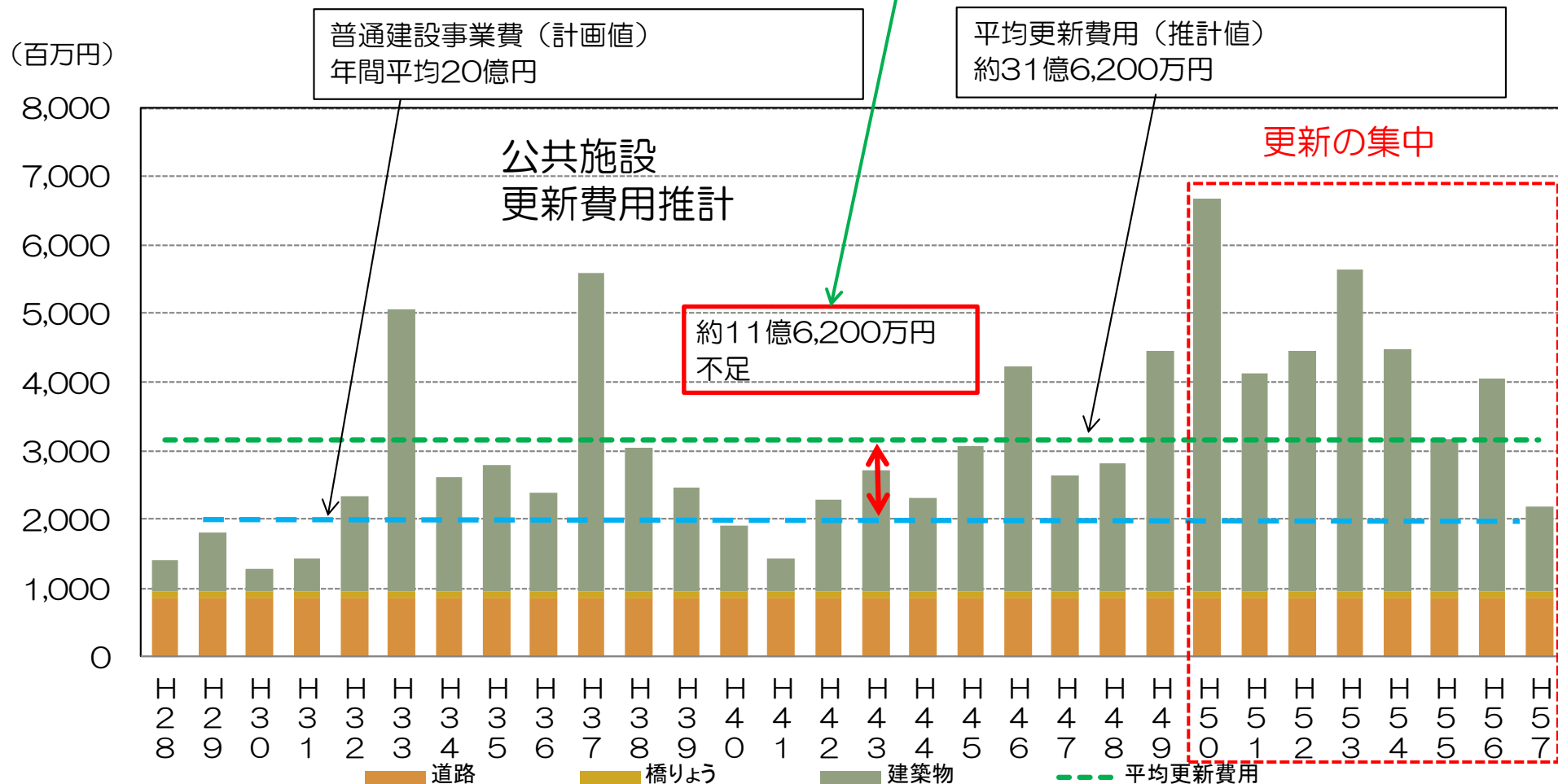
扶助費（社会保障費）は増加傾向です。

歳出の見通し

今後、少子高齢化により、社会保障費が増加する見込みです。

5. 公共施設等の更新費用推計

今後30年間の年間平均更新費用は、約31億5,800万円と予測され、**年間約11億6,200万円**の不足額が発生することが想定されます。



6. 公共施設等の管理に関する基本方針

課題

公共施設の更新費用不足

急速な人口減少と高齢化

厳しい財政状況

計画期間

平成28年度から
平成57年度までの**30年間**

安全・安心の確保

公共施設が老朽化していく中で、安全かつ快適に利用できることを確保します。

全庁的な取組体制

公共施設マネジメントの**専門部署**設置と「**跡地、施設等利活用検討プロジェクトチーム**」との情報共有を図り、施設の総合管理をおこなうための管理体制とします。

適切な配置と規模

志摩市を取り巻く環境の変化に対応し、適切な配置と必要な規模を確保します。

長寿命化の推進

長寿命化計画や点検および診断の計画的な実施を推進し、安全・安心の確保を確実に実施していきます。

目標の設定

公共施設の総量を適正化するために、今後10年間で建築系公共施設の延床面積を**2割削減**

7. 公共施設等の管理に関する実施方針

①点検・診断の実施方針

定期点検と日常点検
実施記録の蓄積と活用

②維持管理・修繕・更新等の実施方針

適切な管理
PPP/PFIの活用も検討

⑧広域的な連携体制の構築

近隣市町と広域的連携の推進
官民連携も視野に入れ検討

③安全確保の実施方針

点検時の安全確認
危険な場合は、修繕・改修

⑦統合的かつ計画的な管理を
実現するための体制の構築方針

専門部署の設置
公共施設マネジメントを推進

8つの方針
目標達成のため
確実な実施

④耐震化の実施方針

災害時対応の機能強化
避難所施設の機能確保

⑥統合や廃止の推進方針

施設保有総量の削減
施設と地域の特性を考慮し検討

⑤長寿命化の実施方針

計画的な予防保全
更新費用の平準化と施設の長期使用

8. むすびに

- 志摩市において、公共施設をめぐる課題は、大きなテーマとなっています。
- 今後は、施設の長寿命化を図り、『新しく造ること』から『賢く使うこと』へ方針を転換していかなければなりません。
- 公共施設の専門部署を新規に設置し、「跡地、施設等利活用検討プロジェクトチーム」と連携し、公共施設マネジメントを推進します。
- 課題の解決に向けて、本計画の実行、検証、改善を繰り返しながら、何より「市民サービスの充実」を図って計画を進めていきます。

